

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20402017

研究課題名（和文）

冷戦期アメリカの知的ヘゲモニーとアジア地域政策—フォード財団の学術助成を中心に

研究課題名（英文）

Intellectual Hegemony of the United States and its Regional Policies toward Asia during the Cold War Period

研究代表者

小泉 順子 (Koizumi Junko) 京都大学・東南アジア研究所・教授

研究者番号：70234672

研究分野：東南アジア史

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：冷戦・東南アジア・アジア研究・中国・地域秩序

## 1. 研究計画の概要

ポスト冷戦期、グローバリゼーションが進行する中、中国の積極的なアジア地域政策を受け、地域区分が流動化し、冷戦期に、アメリカの主導の下に展開されてきた東アジア・東南アジア研究の再検討と、それをふまえたポスト冷戦期における新たなアジア研究の展望が求められている。本研究は、その基礎作業として、冷戦期アメリカにおけるアジア研究の動向とアジア地域政策との関係を、フォード財団などによるアジア研究学術助成と、それをとりまく国際関係の文脈を再検討しつつ明らかにし、かつそれがもたらした帰結をアジアの側から、また中国の台頭という今日的視点から再吟味することを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 初年度より昨年度にかけて、フォード財団やロックフェラー財団などによる学術助成に関する一次資料を調査・収集した。加えてミシガン大学など助成を受けた大学側におけるアジア研究の実態について、資料収集を実施した。さらにアジア側における展開を検討すべく、チューラーロンコン大学、香港中文大学、台湾中央研究院など、関連大学図書館等において資料収集を実施した。

(2) 2年目に、台湾、香港、日本などから研究者を招へいし、“Development of Asian Studies in Comparative Perspectives: The U. S. and its Asian Counterparts”と題された国際ワークショップを開催した。

(3) 並行して、冷戦期にアメリカの大学に提出されたアジア研究の領域での学位論文について大学や専門分野別の動向分析を進めた。

またアメリカの対アジア外交戦略について国務省の資料を検討するとともに、アメリカ外交問題評議会等におけるアジア政策をめぐる議論について資料調査・収集を進めた。

加えてフルブライト基金など、民間諸財団の学術助成とやらんで、アメリカのアジア研究の展開に研究者の育成という側面から重要な役割を果たした諸制度に関しても資料を収集・検討している。

(4) グローバル化時代におけるアジアおよびアジア研究を歴史的かつ現代的に検討する論考や、韓国における東南アジア研究の展開を紹介しつつ、日本における東南アジア研究の今後の課題を提起する学術誌の特集等を刊行した。また成果の一部を、最終年度に国際学会で報告すべく準備を進めた。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進行している。

(1) 北米の財団や大学における資料調査により、冷戦期におけるアジア研究に対する学術助成の方針、助成プロジェクト立案・実施に至る交渉、プロジェクト実施過程に関する一次資料を収集することができた。

財団等のアーカイブ資料から、これまで一般的指摘にとどまっていた北米におけるアジア研究の展開における冷戦の影響を、より具体的に検討することが可能になり、国務省役人の関与の有無なども実証的に明らかになりつつある。

(2) タイ、香港、台湾、など、アジアにおけるアジア研究の展開に関する資料を収集した。またこうしたアジア側の対応について、アーカイブ資料に基づき論考を発表した。

(3) 資料調査と並行して、ポスト冷戦期のア

ジア研究をいかに展望すべきかという課題について、グローバル化時代におけるアジア地域のダイナミズムと研究動向を歴史的に論じるとともに、華僑華人研究の現状と展望、韓国=ベトナム関係に関する研究の展開という観点からも検討した。また最終年度に国際会議等において、英文で発表すべく準備を進めた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

3年間の資料調査の結果を整理し、補足資料の収集に努めつつ、英文も含めて、個別論文や学術誌の特集などの形で、成果を発表する計画である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

1. 小泉 順子 「タイ・アメリカ教育交流協定に関する一考察—冷戦初期アメリカのアジア戦略と対タイ外交政策」『東洋文化研究所紀要』159号 査読なし 2011 pp.218-190

2. 小泉 順子 伊藤 正子 「<特集>東南アジアを超えて：ベトナム=韓国関係再考—地域的・歴史的視点から—「序」」『東南アジア研究』48-3 査読有 2010, pp. 235-241

3. 濱下 武志 「グローバリゼーション下の地域研究の新たな課題」『北東アジア研究』(島根県立大学北東アジア地域研究センター) 第20号 査読なし 2011, pp.17-29

4. 濱下 武志 「華僑華人研究の現在—グローバルとローカルの間で」華僑華人研究(日本華僑華人学会) 査読有 第6号 2009, pp.5-19.

5. 濱下 武志 「Chinese の国際移動と国際秩序：歴史、現在、未来」『アジア研究(アジア政経学会)』査読有 第55巻第2号 2009, 56-69.

[学会発表] (計5件)

1. Hamashita Takeshi, "Connecting Histories in Cross-Pacific Regions 1850-1880: Archival Historiography on the US-East Asia Relations from Ryukyu(Okinawa) Perspectives", Association of Asian Studies, 2011年3月31日, ホノルル (USA)

2. 濱下 武志 「グローバリゼーション下の地域研究の新たな課題」島根県立大学「交錯

する北東アジアアイデンティティの諸相」研究会 2010年3月15日 島根県立大学

3. 小泉 順子 「1880年代中葉におけるシヤムの地域認識」 The First KASEAS-CSEAS Joint International Symposium 2009年6月19-20日 Gyeongsang National University (韓国)

4. Takeshi Hamashita "Post WW II Relationship between Okinawa and the U.S.: Political Leaders, Academia, and Student Overseas," International Workshop: Development of Asian Studies in Comparative Perspectives: The U.S. and its Asian Counterparts, May 16, 2009, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

5. Junko Koizumi. "Comment: The Fulbright Program in Thailand," International Workshop: Development of Asian Studies in Comparative Perspectives: The U.S. and its Asian Counterparts, May 16, 2009, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

[図書] (計1件)

1. 濱下 武志 『中国・東亜と全球経済—区域と歴史的視角』社会科学文献出版社(中国・北京) 2009, 275頁